

<発表資料>

- 社史・アーカイブ総合研究所 -

「読まれる原稿」の作り方

社史原稿が読まれるようにするには、構成、文章、デザインの3つを工夫することができます。それぞれの工夫のポイントを囲みで示したのでご覧ください。

- 1.の②に関しては、平易で面白いものを心掛けください。例えば「創業：昭和10～20年」などの細かな数字は極力避けてください。

原稿が読まれるために工夫すべき点

1. 本文の構成（目次）の仕方

- ① 人間を描き込む
- ② 興味をそそる見出し、変わった見出しを付ける
- ③ 見出し（大・中・小）のレベルを統一する
- ④ 大見出しには年数を入れる
- ⑤ 次の章につながるような書き方の文章で構成する

2.の②については、新聞程度の常用漢字を使うようにしましょう。④もデータ類はなるべく図表にして、文中には入れないようにします。

2. 文章の書き方

- ① 長いセンテンスはやめる
- ② 漢字の使い方に注意する
- ③ 1つの小見出しにつき2頁程度の長さにする
- ④ 数字の羅列は避ける

3.の③に関しては、B5やA4サイズの本で14～15Q程度。ちなみに、書店で販売されているビジネス書の本文の文字の大きさは、現在14Qが主流ですが、13Qのものもあります。

3. 本文のデザイン・割り付けの工夫

- ① 写真を多用する
- ② 余白に余裕を持たせる
- ③ 文字は大きめにゆったりと入れる
- ④ 見出しの位置をはっきりとさせる
- ⑤ 本文と見出し、注記、写真キャプションの書体、級数の使い分けにメリハリを付ける

特に一番の読者である社員がざっと目次を見た時に、「面白そう」と思われると通読率がアップします。そういうことを意識して見出しを考えるといいでしょう。



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目8-8 アクロス新川ビル 4F
TEL 03-6824-9113 FAX 03-6824-9110 ✉ info@shashi-archive.jp 担当：鈴木

<https://shashi-archive.jp/>
No.00042

2022年10月27日

(本資料使用上の留意点について)

本資料は当社が独自に収集したデータを基に作成しております。その正確性と最新性の確保に努めていますが、完全性を保証するものではありません。調査、分析、統計処理等によってその都度データを更新する場合があります。当資料の内容に関するいかなる間違い、不掲載についても一切の責任を負うものではありません。資料に示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。利用に際しては御自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。その他、当資料の取り扱い事項は当研究所の会員規約に準じます。

(著作権について)

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。
当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

- 組織情報 -



ビジネスのDNAを次世代に伝える

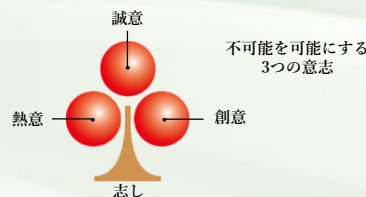
出版文化社

【代表者】
代表取締役社長 浅田厚志
【創立】
1984年2月6日
【資本金】
99,234,300円

【東京本部】
東京都中央区新川1-8-8
アクロス新川ビル4F
TEL：03-6823-6820（代）
【大阪本部】
大阪市中央区久太郎町3丁目4-30
船場グランドビル8F
TEL：06-4704-4700（代）
【名古屋支社】
名古屋市熱田区五本松町7-30
熱田メディアウイング3F
TEL：052-990-9090（代）

Learning Organization

豊富な実績を基に多様な社史・記念誌づくりを提案します。
編集は自社内で一貫して行っています。
専門家＝アーキビストが常駐しています。
品質管理、情報セキュリティのISOを取得している日本唯一の出版社です



-社史とアーカイブに関する日本初、唯一のシンクタンク-



社史・アーカイブ総合研究所

CORPORATE HISTORIES AND ARCHIVES RESEARCH INSTITUTE

社史・アーカイブ総合研究所は『社史・記念誌の有効活用と、ビジネス・アーカイブの普及への貢献』という大きな目標を掲げ、2019年に設立した専門研究機関です。社史とビジネス・アーカイブに関する情報の収集、コンテンツの企画と発信を行っています。

運営組織 社史・アーカイブ総合研究所
英文 Corporate Histories and Archives Research Institute
代表者 小谷允志
設立 2019年10月1日
研究員数 10名（東京6名・大阪4名）